

第三九回 内村鑑三研究セミナーのご案内

日時 二〇二五年六月一日(土曜日) 一四時～一七時

開催方法 対面とZOOMのハイブリッド方式として開催

会場は立教大学池袋キャンパス二二号館 地下一階 第一・第二会議室

発表

内村の再臨運動と大正デモクラシー

古賀 敬太

(大阪国際大学名誉教授)

〈発表要旨〉

一九一八―一九九一年にかけて再臨運動を展開した内村鑑三は、大正デモクラシーの運動には批判的であつたと言われる。他方、内村の再臨運動に批判的であつた海老名弾正は、内村の終末論的な再臨論を民主主義の進展を妨害するものと批判した。海老名ほどではなくても、当時の日本基督教会の指導者植村正久も同じ認識を抱いていた。本報告では、内村鑑三、海老名弾正、そして植村正久の再臨論の理解の相違について触れ、そうした相違が三人の大正デモクラシーに対する態度決定にどのような影響を及ぼしたか、神学と政治の相互関係について検討する。(参考文献 古賀敬太『近代日本プロテスタント史の政治思想——内村鑑三、植村正久、海老名弾正の足跡』風行社、二〇二四年)

内村鑑三晩年の「哲学熱」と真理の楕円説——純福音の析出をめぐって

千葉 恵

(北海道大学名誉教授・登戸学寮寮長)

〈発表要旨〉

内村の晩年の「哲学熱」がいかなる問を解くべく必然的なものであつたのか、彼の「思想の中央を貫通する断層の深さ」(川喜多愛郎)は何かを、進化論に基づく天然理解と聖書の福音理解の間の断層として、さらにより本質的には贖罪理解における断層として摘出した。それは彼が「全聖書を解く鍵」と呼んだ「ロマ書」三章二一節以下をめぐる二世紀以来の誤訳の故に結果的に生じており、彼にその責めを帰せられものではなく、彼のその断層の乗り越えはパウロの思考様式そのものに導かれ、真理の楕円説において理論的には解決を見ていた。神の前では信仰は義認の条件とは看做されていない。

司会 岩野祐介(『内村鑑三研究』編集委員、関西学院大学神学部教授)

資料・通信費 一〇〇〇円

申し込み 六月一二日までにメールで左記までお申し込みください(氏名、TEL、メールアドレス明記)。ZOOM方式で参加の方々には、折り返し当日ログインするURLと資料・通信費振込口座の情報をお送りします。(対面でのご参加の方はお申し込み不要。会場に直接お越しください。)

岩野祐介 メールアドレス ah117298@kwansei.ac.jp

主催 『内村鑑三研究』編集委員会

(岩野祐介、柴田真希都、ゾンターグ・ミラ、高木謙次、千葉眞、ラフエイ・ミシエル、渡部和隆)

問い合わせ 岩野祐介 メールアドレス ah117298@kwansei.ac.jp

今井館教友会気付『内村鑑三研究』編集委員会宛(郵便にて)